

# お披露目会

6 LIFESTYLE DESIGN PAPER

この講座では、予防医療が介護、看取り、地域コミュニティなどの側面から、第一線で活躍されている方を講師に迎え、参加者自身がクリエイティブな発想で「人生 90 年時代」の生き方を考えてきました。

全 5 回の講座とワークショップを終えて私たちが完成させたのは、「野々市版の地域包括ケアシステムの構築」に向けて、すでに地域で役割を果たしているさまざまな社会資源をまとめた冊子『ののいち日和』。そこで今年度の総まとめとして、皆で冊子の出来を確認、次年度の活動へ向けたビジョンを発表しよう「お披露目会」を開催しました。

お披露目会も  
開催しました！

前回のワークショップから約1カ月半。久々にワーキンググループのメンバーが情報交流館カメラアに集まりました。今回は、約 5 カ月にわたり取り組んできたワークショップの集大成として制作した冊子『ののいち日和』のお披露目と、次年度に向けての活動ビジョンの報告会です。

冊子そのものは、「実はまだ日本のどの自治体も取り組んだことのないやり方」で制作を進めてきたため、その手順の丁寧さゆえにこの日はまだ完成版ではありませんでしたが、各チームとも自分たちが取材した人や施設や取り組みなどがどのように誌面化されたか、興味津々で目を通しました。

次年度の活動については、各チームともコンセプトを事前にポスター化。全体の振り返りのため再度野々市市を訪れた studio-L の代表・山崎亮氏を交えて活発に意見を交換しました（詳細は裏面へ）。



日時：3月28日（月）19:00～21:00  
場所：野々市市情報交流館カメラア 2F

当日の流れ

- ① はじめに
- ② 全5回のふりかえり
- ③ 冊子のお披露目
- ④ 来年度の活動の発表と交流会
- ⑤ 山崎さん講評
- ⑥ おわりに



## レクチャー 主語のある地域包括ケアを目指して

山崎亮（studio-L）

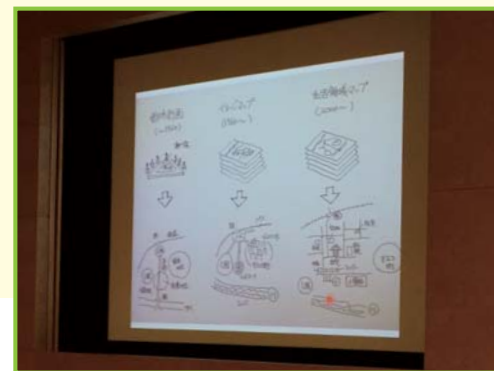
皆さん、長い間の講座、お疲れ様でした。冊子を見て、すべてのチームの発表を聞いて「野々市市、面白い方向に来ているな」と思っています。僕たちがいつも使うスライドにも、もう「野々市市」の名前が入りました。皆さんの取り組みを全国でお話するようになるのも、そう遠くないような気がしています。

さて今日は、地域包括ケアシステムにおいて「住民参加型で行う」ということがなぜ大事なのかをお話したいと思います。はじめに都市計画理論の話からになりますが、1960年代頃まで、都市の計画というのは専門家中心に進められ、住民の意見を聞くことは一切ありませんでした。しかし2000年代になって、そうした旧来の都市計画理論に対して「ホントかよ!？」と異論を唱える人たちが出てきました。自分たちの生活領域を考えた時、専門家がまちにとって重要だと言ってきた駅や道路、公園などといったオフィシャルなものよりも、スーパーや空き地、病院や友だちの家などといった、自分の暮らしに密着したものが自宅の近くにあることのほうが「生活が豊かだ」と感じるのではないかと、という意見が出てきたのです。生活にとって本当に大切なものは、実は些細なことであって、人によって価値観も違う。こうしたことが、地域包括ケアシステムの中にも起きているのではないかと思います。

病院やデイサービスや特別養護老人ホームなど、高齢者にとって大事な施設というのは、今現在でも野々市市には存在しています。しかし、自分の生活や楽しみにとって大切に元気を与えてくれるのは、そうしたオフィシャルな施設だけでなく、実は路地裏にいつもいる猫の存在であるのかもしれない。そういうインフォーマルな情報こそが「社会資源」になっていくのではないかと——地域包括ケアシステムにおいては、住民からの視線が不可欠です。専門家だけでいくら話し合ってもダメなんですね。地域の住民自身が意見交換して、生活にとって不可欠なものを見つけていく必要がある。主語が抜けてはしようもないんです。

同時に、冊子をつくることの効果についても考えました。ラーニングピラミッドというものがあります。実は、こんな風に講義形式でお話した場合、みなさんの中に1週間後に残る知識というのは10%にも満たないと言われています。しかし、昨今言われているアクティブ・ラーニング形式で、グループで議論したり作業したりすると、覚えている割合が90%に上るとも言われているのです。そしてさらに、知識を「誰かに教える」ことは、教える側にとっても知識の定着に一番役立つとも言われているのです。

今回、参加型の形式で皆さんに講義に参加していただき、冊子づくりを行ったのは、実にこのためでもありました。「誰のための地域包括ケアシステムか」という主語づくりと、「いかにコアな人たちに知識を深く知ってもらい、伝えてもらうか」。このことを、野々市市と studio-L とで相談した結果が、こうした取り組みになりました。ぜひ、今回の冊子が本当に完成した際には、これを片手に自分たちの取材の成果を、回りの人に伝えてください。そうすることによって、みなさんの中にますます活きた「地域包括ケアシステム」が生まれてくると思います。それは、かなり最先端なことで、とても重要なことなんです。



当日急遽手書きで追加された「都市計画理論と地域包括ケアシステム」についてのスライド



ラーニングピラミッドによると、こうして皆で作業したことの意味がよくわかる

# 来年度の活動について

今年度、冊子づくりのための取材を6つのチームに分かれて行いました。そのチームとテーマをベースに、次年度ではどんな活動を行っていききたいかを話し合い、ポスターのかたちにまとめて、お披露目会の中で発表しました。



## 「運動」に関するあったらいいな 野々市歩きつくしプロジェクト

ねらい

- ・誰かと一緒に、日常的に歩くことを提案する
- ・SNS を活用して地域のウワサMAP などを作り、商工会や市内の歩こう会と連携する



山崎さんのアドバイス

- ・ルートは口コミで広げた方が楽しそう
- ・初めはプロジェクトメンバーがまず歩いてみて、地域のキーになる人に連れ回してもらおうといいのでは
- ・漫然と歩くより、ルートの決定権を指名制で与え、「人を信じて」歩くことを続けると楽しくなりそう!

## 「食」に関するあったらいいな 食でつなぐプロジェクト

ねらい

- ・野々市市内のコミュニティカフェの連携と後方支援
- ・地域の高齢独居の人や夫婦の人の食生活事情を調査



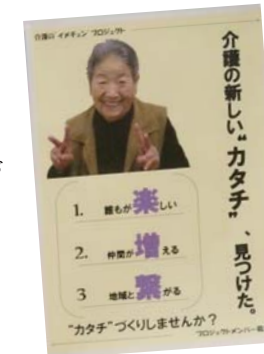
山崎さんのアドバイス

- ・なるべく楽しくやる工夫が大事
- ・あまり厳密になりすぎず、買い物時のかごの中だけ定点観測するなど「考現学」の気持ちで取り組むと、新たな側面が見えてくるかも

## 「介護」に関するあったらいいな 介護のイメチェンプロジェクト

ねらい

- ・デイサービスなどのマイナスイメージを変えていきたい
- ・スタッフ同士のネットワークづくりなどを通じて、介護職の新しいかたちを考えたい



山崎さんのアドバイス

- ・もしサイトを作るのなら、利用者もスタッフも見もののできるといい
- ・雑誌のように、「その人」「その仕事」の物語を載せることで、広報としても求人対策としても利用できる
- ・実際に楽しんで働いている人がいるのだから大丈夫!

## 「医療」に関するあったらいいな 最期まで自宅でプロジェクト

ねらい

- ・在宅医療経験者にヒアリングし、専門職も交えて課題について考える
- ・自宅で最期を迎えることに対する意見などを幅広く集めたいか難しいような気もしている



山崎さんのアドバイス

- ・経験した人のエピソードを無駄にしないことが大事
- ・野々市市ローカルのエピソードを探してみる
- ・デリケートな話題だが、話して役立てたい、伝えたいと思っている人はいるはず
- ・小さい範囲から始めていくといいのでは

## 「仕事づくり」に関するあったらいいな マイ・グランチャ プロジェクト

ねらい

- ・シルバー人材センターに注目して、新しい仕事を創出する
- ・身近に祖父母がいる環境を再現したい



山崎さんのアドバイス

- ・海外では、編み物などで若者と高齢者が役割分担でうまく運営しているプロジェクトがある
- ・お互いのできること(アイデア)、得意なこと(技術)を切り分けることが秘訣かも

## 「住まい」に関するあったらいいな まちのリビングプロジェクト

ねらい

- ・野々市市に交流のポイントとなる「縁側(リビング)」をつくりたい
- ・太平寺会館をリビングに見立て、みんなが集まれるような場所を増やしていきたい



山崎さんのアドバイス

- ・訴えかけたい年齢層によっては「縁側」より「リビング」の方がイメージが付きやすい
- ・ただ、縁側のもつ絶妙な境界(家と外の)の感じは活かせるととても良い

## 次年度に向けて

長い時間をかけた講義とワークショップが終了しました。本当にお疲れ様でした! 今回皆さんのお手元にお配りした『ののいち日和』、これは完成版ではなく「一歩手前版」でしたが、制作の過程で皆さんと一緒に「野々市市ならではの地域包括ケアシステム」づくりを考えながら、人生90年時代に最も重要なものは何なのか、理想的な1日を送るために必要なことは何なのかを探ることができたのではないかと思います。

この事業は、次年度も引き続き継続し、今度は「野々市市で小さな仕事をつくるプロジェクト」に進化していきます。詳しいことが決定したら、またみなさんにもお知らせをお送りしますので、「一緒にやってもいいな!」と思われた方は、ぜひ奮ってご参加ください。ありがとうございました。

